チャレンジ！一歩前へ

郡山市立大槻小学校
学校だより　No.71
令和４年　３月１４日
文責：校長　　酒井　　健

◇令和３年度、登校日あと６日、とうとう・・・いよいよ・・・ですね。

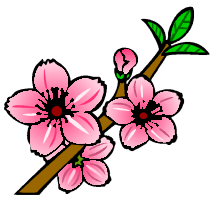
いつの間にか、明日から数えて、子どもたちの登校日が６日となりました。本当にあと僅かなんだなと痛感いたします。２３日(水)の卒業証書授与式では、８７名の卒業生が、夢と希望と期待を胸に、大槻小学校を巣立っていきます。また、１年生から５年生の４６２名は、今の学年を修了し、次の学年へと大きくジャンプします。

あと６日です。全校生一人一人、今年度のゴールに向けて、卒業、進学、修了、進級への気持ちをしっかりと心にもち、落ち着いて２３日を迎えることができればと思います。

保護者の皆様、コロナウイルス感染がなかなか収束していない「今」です。今年度、残り僅かの子どもたちの、ご家庭での健康管理・感染対策、何とぞよろしくお願いいたします。

【今後の日程について】

３月１４日(月)	卒業式練習（５・６年生）５校時
１５日(火)	卒業式練習（５・６年生）４校時
１６日(水)	卒業式練習（５・６年生）１校時　　愛校活動
１７日(木)	卒業式予行（５・６年生）５・６校時
１８日(金)	卒業式練習（６年生のみ）５校時
２２日(火)	修了式（１～５年生）２校時 TV放送　　式場作成(５年生・職員) 給食なし　お弁当の日　5年生は５校時、その他は４校時限
２３日(水)	令和３年度 卒業証書授与式
２５日(金)	教室移動（５年生・職員）　PTA三役会、会計監査、表彰状贈呈式
３０日(水)	離任式（TV放送にて）見送りはなし



◇つぼみが見られるようになりました。

暖かさが、このところ増してきました。すでに春の到来が感じられます。校庭の東側の門のところにしだれ桜のつぼみがあるとの声を聞き、見に行ってみました。本当でした。感動です。

寒い冬を懸命に耐え、しっかりとつぼみを出している樹木に、感動しました。春は、もうすぐそこまで来ているのですね。

校長のひとりごと

先週、３月１１日(金)は、東日本大震災からちょうど１１年目の日でありました。私たちにとって、決して忘れてはいけない日であります。お昼の放送の時に、私から全校生に話をしました。その話の最後には次のような内容を子どもたちに伝えました。

「１１年という長い年月が経過しましたが、災害前と同じ生活ができないでいる方々も、今でもたくさんいらっしゃいます。また、福島復興のために、毎日頑張っている方々も多くいます。この東日本大震災は、６年生の皆さんが生まれて間もない頃の災害です。つまり、全校の皆さんにとっては、記憶にない出来事です。しかし、これから未来に向かって一人一人、大きくジャンプしていく若者である全校の皆さんは、この東日本大震災という、とてつもなく大きな災害があったこと、そして、３月１１日・・・今日という日を忘れずに、心豊かに成長していってほしい、そう願っています。」　子どもたちの心に届いたかな？

私は、さらに、東日本大震災関連で心に残る言葉があります。それは、「釜石の奇跡」という言葉です。群馬大学大学院工学科研究科教授、片田敏孝先生が、震災前から釜石の小中学校の防災教室に関わっていたことで、犠牲者が誰もいなかった・・・奇跡とも言える避難をすることができました。私は、震災後、この片田敏孝先生の講演を聞きました。その時、特に感銘したお話は、**◆何か起こった時に、「先生、どうしよう」「お母さん、どうしよう」では、命を守ることはできない。自分で・・・という『生き抜く力』が防災教育の原点です。　◆本当の敵は、津波か？　いや、本当の敵は、自分自身である。誰かに「逃げなさい」と言われて「はい」と言って逃げるのか、それとも「ぼくは逃げる」と言って逃げるのか。**

◆防災教育の原則は、①想定にとらわれるな　②最善をつくせ　③率先避難者であれ　である。

本物の方の言葉には重みがあり、心に響きました。今後も、学校として、子どもたちの安全・安心を第一に考え、「自分の身は自分で守る」ことができる防災教育を推進していきます。